

第26回自治労関東甲地連 青年女性夏期交流集会開催!!

New

2023年7月21日(金)～23日(日)の3日間にわたり、

自治労会館にて『第26回自治労関東甲地連青年女性夏期交流集会』が開催されました。

▼そもそも『夏期交流集会』とはどんな取り組みなのか疑問に感じられた青年たちは多くいるのではないだろうか？夏期交流は、単組を飛び越え多くの仲間たちと学び合い、学習や交流を通して職場や社会の問題に気づききっかけとなる場所です。夏期交では、自分と似た問題を抱えている仲間と共に職場の問題点を見つけ、私たちはどうやって向き合うべきなのか活発な議論を行うことができず。不安定な時代だからこそ組合について改めて考えることが求められています。

写真 分散会の様子



『団結ガンバロー』

ではなく

エイエイオーが

はじまりだった？

▼一日目の基調講演では、『なぜ団結ガンバローなのか』を労働大学の原ひとしさんが講師として教えて下さいました。団結ガンバローの始まりは、大日本帝国時代に祝い事やめでたいことが起きた際に行っていた「万歳三唱」とされています。しかし、日本の労働組合の多くは終戦後に組織され、「天皇陛下万歳」を想起させる違和感を覚えたことか

ら、現在の『団結ガンバロー』に少しずつ変化していきまし。この行動の背景には、組織の繁栄と平和な社会への願いが込められており、労働者たちには「団結」が必要不可欠という考えから生まれたものだと言えました。今回の講演を通じ、私たちがなぜ団結ガンバローと言っているのかその意味を知ることができ、より力強く『団結ガンバロー』と声を出すのは間違いなしです！

▼二日目の分散会では、関東の自治体で働く仲間と職場の問題点について話し合いました。参加者の中には、夏期交流集会自体が初参加だった仲間が多く、行政職に勤めていないと分からない悩みや職場実態を聞くことができませんでした。特に行政職は所属する課にもよりますが、勤務時間外労働(超勤)が当たり前に行われているという仲間の声もあり、私自身も驚きました。他には、残業は美学であるという風習や2時間未満の残業代は請求しないという暗黙の了解が存在するなど、間違った認識が定着してしまっている職場環境であることを知ることができました。

▼三日目は、分散会で議論した内容の報告を行いました。報告の中には『今まで組合活動に前のめりではなかったが色々な話を聞く中で参加する意義に気づき考え方が変わりました』『自治体によって休暇や時間外など、労働環境にばらつきがあることを知り、また』『など様々な気づきを得る多くの仲間の声を聞くことができました。』

最後に、三日間を通して各県本部の垣根を越えた仲間と交流を図ることができました。講演や分散会を通じ『自分の当たり前が当たり前ではない』と気づききっかけになりました。今回学んだことを自分たちの中で完結させるのではなく、学んだことを多くの青年たちに伝えていきます。これからも共に頑張りましょう！



感想の輪

今回、夏期交流集會に参加された本部青年部の皆さんに感想を聞いてみました。

今回、初めて自治労関東甲地連青年女性夏期交流集會に参加しました。分散会で行政職の仲間から職場実態・問題点を聞いて良かったです。

台東支部 杉野谷さん



『学び』



各県を越えた仲間との交流はとても貴重な機会になりました。夏期交は各自治体職員との学習と交流ができる大変貴重な機会です。次回参加してみたいと思う青年の皆さん、是非参加してください!!

文京支部 須永さん



『団結』



今回、自治労関東甲地連青年女性夏期交流集會初参加となります。三日間を通して、他単組の話聞いたこと、職場の悩みや問題点に気付いたことで実りある交流集會となりました。

中央支部 橋本さん



『気付き』



▼私たち青年部は、毎年12月の繁忙期を向かえる前に『「生命と権利」を守る』取り組みを行っています。生命と書いて『いのち』と読んでおり、縮めて『いのけん』と呼ぶ仲間もいます。

過去に凄惨な事故によって作業員が亡くなってしまったことから、同じ悲劇を繰り返さないために始めた運動が『「生命と権利」を守る』取り組みでした。また、通年の取り組みとして、各区の青年たちが安全作業に向けてヘルメットに『いのけん』ステッカーの貼付活動や青年たちでポスターを作成し注意喚起を促しています。

『転倒』



『はさまれ巻き込み事故』

現場で闘う

超人青年たちへ

を訴え続けるの

なぜ
なぜ?

『生命』と『権利』



課題に向き合う青年たちの

熱中症への対策

続く猛暑、私たちはどう乗り越えていくべきなのか...

▼今年の夏も厳しい暑さが続きましたが、9月に入ってもなお気温が落ち着くことはありませんでした。

9月11日〜17日までの1週間、熱中症で病院に運ばれた人は全国でおよそ3000人と報道番組でも発表されており、2008年以降この時期としては最も多かったそうです。猛暑続きの中で作業を行うことは私たち清掃作業員にも大きく影響を与えています。

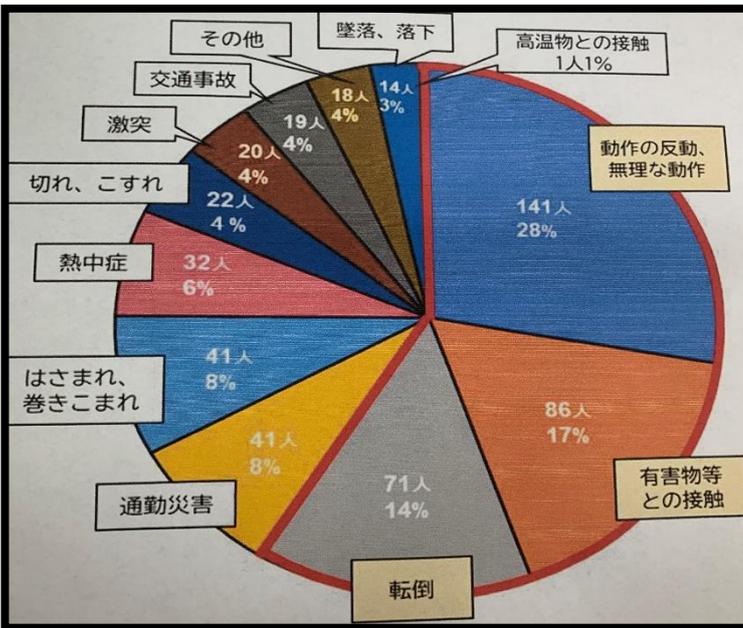
実情として、作業中に熱中症で倒れてしまったり、暑さにより疲れがとれず集中力が低下し怪我や事故に繋がってしまったケースも報告されています。



事故発生率増加傾向にある？

▼令和3年度における清掃職員の公務災害認定件数は832件の報告があがっています。また、全体のデータとして怪我や事故の発生率は高齢になればなるほど上がっているというデータが出ています。

ポイントとして押さえておきたいことは、全ての年齢層において、経験期間が短いほど怪我のリスクが高く、休業見込み期間は年齢があがっていくにつれて長くなっていることです。



▼異常気象により、暑い夏が続く中で私たちが今後課題として取り組んでいることは、熱中症への対策です。

2023年7月12日(水) 第3回各地連議長・事務局長及び支部代表者会議が行われました。会議の内容として各地連報告以外に各支部の夏季対策について話し合いました。その中で、空調服の導入を検討している支部に空調服のメリット・デメリットのアドバイスや経口補水液を導入し熱中症予防を徹底しているなど様々な議論が行われました。

私たちの安全作業を守っていくために、各支部が協力し、議論を行っていくことで職場の環境は改善されていきます。一見関係が無いように見える取り組みでも、見方や考え方を変えれば繋がっていくことがあります。自分の当たり前

取り組みは繋がっている？一つひとつに意味がある

が当たり前ではないことに気付くきっかけになれば幸いです。この機関誌を読んで『いのけん』についてピンピンに興味を持ったその青年！一緒に参加してみませんか？



↓地連議長・事務局長及び支部代表者会議の様子↓



頑張っていくニヤ!!

本部青年部からのメッセージ

墨田支部・江戸川支部の青年の皆さま
復刻版ヤングパワーの撮影に
協力して下さいありがとうございました!!

情報宣伝部長 橋本龍輝

